

膠原病・リウマチ性疾患とワクチン

ステロイドや免疫抑制薬、生物学的製剤など膠原病・リウマチ性疾患で頻繁に使用する治療薬は免疫を抑える方向に働くため、感染症にかかりやすくなります。もちろん感染症にかかったら治療をするのですが、時に入院が必要になったり後遺症が残ったり(例えば带状疱疹は治癒しても頑固な痛みが残ることがあります)と負担は少なくないものがあります。そこで私たちはワクチンによる感染症予防をおすすめしています。

膠原病・リウマチ性疾患患者さんにおすすめする代表的なワクチン

- **インフルエンザワクチン:** 毎年打つことをおすすめします。
- **肺炎球菌ワクチン:** ニューモバックス®とプレベナー®の2種類があります。どちらも打っていないければ、プレベナー®を先に打ってからニューモバックス®を打つのが良いと言われています。
- **带状疱疹ワクチン:** 遺伝子組み換えワクチンならステロイドや免疫抑制薬使用中でも接種可能です。2回打つ必要があります。
- **ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン:** 子宮頸がんや肛門がんなどの予防を目的とします。特に26歳以下の女性、男性で打つのが良いとされています。男性はガーダシル®が接種可能です。
- **新型コロナウイルス (COVID-19) ワクチン:** 全員におすすめします。詳しくは「コロナワクチンと膠原病・リウマチ疾患」をご覧ください。

注意が必要なワクチン

ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK阻害薬などを使用中の患者さんは、生ワクチン接種は避ける必要があります。生ワクチンには毒性を弱めたウイルスや細菌が使用されており、免疫を抑える薬剤を使用中に打つと感染症が発症する心配があるためです。

● 主な生ワクチン

麻疹、風疹、水痘(みずぼうそう)、流行性耳下腺炎

BCG、ロタウイルス、黄熱

● 妊娠中に生物学的製剤を使用していた場合の赤ちゃんへの予防接種

多くの生物学的製剤は胎盤を通過して赤ちゃんに移行します。通常は問題にはならないのですが、生物学的製剤を使っていたお母さんから生まれた赤ちゃんに生ワクチンを打つことで、感染症が発症することが稀にあります。ですので妊娠後半に生物学的製剤を使っていた場合は、生後6か月は生ワクチン(BCGとロタ)は控えるようにしましょう。